

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2022-3007-1	利用形態	内部研究	利用する 試料・情報	TMM地域住民コホート調査参加者のうち、いわて東北メディカル・メガバンク機構で実施された地域住民コホート調査にリクルートされた参加者約3万人の性別、年齢、特定健診情報、調査票情報、生理機能検査情報、検体検査情報、追跡情報	
主たる研究機関	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	東日本大震災被災地における社会的孤立と総死亡および脳卒中・心疾患発症との関連			研究期間	承認日～2029年3月31日	
実施責任者	事崎由佳	所属	いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門/ 衛生学公衆衛生学講座		職位	講師
研究目的と意義	いわて東北メディカル・メガバンク機構(IMM)における地域住民コホート調査参加者約32,000人のコホート情報、追跡情報を用いて、社会的孤立と総死亡および脳卒中・心疾患発症との関連を検討する。これらの知見は、公衆衛生学的観点から、大規模災害後に社会的に孤立している人々に対する支援および予防活動の充実に資することが期待される。					
研究計画概要	TMM計画のうち、地域住民コホート調査のベースライン調査および詳細二次調査のデータを用いて、社会的孤立と抑うつ症状との関連(Kotozaki Y, et al., 2021)や東日本大震災後の社会的孤立の変化とその関連(Kotozaki Y, et al., 2023)、岩手県における東日本大震災後の住居形態による社会的孤立の状況(Kotozaki Y., et al.,)について明らかにしてきた。一方、社会的孤立はメンタルヘルスだけではなく、死亡や心血管疾患との関連も注目されており、社会的孤立が死亡に影響するとのメタ解析結果(Holt-Lunstad J et al., 2015)や、社会的孤立が脳卒中の発症を増加させるとの16の心血管研究のメタ解析の報告もある(Valtora NK et al., 2016)。そこで、本研究では、IMM地域住民コホート調査参加者約32,000人のコホート情報、追跡情報を用いて、社会的孤立と総死亡および脳卒中・心疾患発症との関連を検討する。統計解析では、社会的孤立と死亡および脳卒中・心疾患発症との関連を検討するため、Cox比例ハザードモデルを用いて死亡および脳卒中・心疾患発症の多変量調整ハザード比を求める。					
期待される成果	大規模地震後における社会的孤立と総死亡、および脳卒中発症との関連を明らかにすることで、公衆衛生学的観点から大規模災害後に社会的に孤立されている方に対する支援や予防活動に資することが期待される。					
これまでの倫理 審査等の経過	【承認番号】HGH25-2 【研究課題名】いわて東北メディカル・メガバンク地域住民コホート調査 【研究期間】2023年3月31日					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	本研究で用いる情報は、匿名化した上で、高度なセキュリティと厳正なアクセス管理が担保されたコンピュータ内に限定して管理する。また、分譲された情報は、いわて東北メディカル・メガバンク機構のセキュリティポリシーに沿ってネットワークから切り離されたスタンドアローンの環境でのみ解析する。					
その他特記事項						
*公開日 2026年2月2日						